

Book Review Corner

ブックレビューコーナー



高野澄 文・水野一晃 写真

『歴史の京 洛南を歩く』

(淡交社)

嵐山、嵯峨野がある「洛西」、金閣寺がある「洛北」、銀閣寺・清水寺がある「洛東」。これらの地域と比べると、「洛南」という響きにあまりピンとこない方が多いのではないのでしょうか。

ですが、「洛南」にも伏見稲荷など数多くの名勝・史跡があり、他の地域の史跡とはまた違った趣を醸し出しています。これから京都は本格的な観光シーズン。本書を参考にぜひ洛南へ足を運んでみてください。

291.62-Tak (H.M.)



ロレイン・ラインボールド 宮里恭子 著

『これで安心!! 電話の英会話』

(ジャパンタイムズ)

学生の皆さんも在学中、卒業後にも電話で英語を話したり、聞いたりすることが多いことでしょう。本書では、まえがきにあるように、オフィスで電話をするときには、何よりもベーシックでポライト(礼儀正しい)な英語を話すことを心がけることが大切と説明していて、英会話の本です。

しかし、英会話にとどまらず、職場での電話以外のFAX、Eメール、ウェブサイトとの連携や、うっかりイエスという前に「今すぐお答えできないのですが」という言いまわしなど、オフィス事務の基本にも役立つ書物です。

837.8-Rei (S.O.)

モート・ローゼンブラム 著 市川恵里 訳
『オリーブ讃歌』

(河出書房新社)

オリーブといえば、多くの人たちにとっては料理のレシピぐらいにしか思い浮かびませんが、その歴史は古く、地中海沿岸地方では数千年前から栽培され、平和と豊穡の象徴、聖なる木として尊ばれてきました。

本書は、丹念な取材に基づき、知られざるオリーブの世界を語り尽くすオリーブ礼讃の書です。

著者ローゼンブラムは、アメリカで生まれ "International Herald Tribune" の編集長を経て、現在フランスを拠点に活動しているAP通信の特派員で、1986年以来パリとプロヴァンスに住んでいます。オリーブに魅せられ、たちまちその崇拜者になってしまいました。本書の他にも多くの著書があります。

617.9-Ros (H.T.)



波多野敬雄 監修

『この一冊で世界の国がわかる!』

(三笠書房)

現在は情報化社会であると言われているように、世界各国の情報がすぐに手に入るようになりました。しかし、その情報を生かしていくことは、なかなか難しいものです。私たちは世界の国々についてさらに知る必要があります。

本書では、世界197カ国の地理、歴史、経済など多くのデータがコンパクトにまとめられています。世界各国の情勢を気軽に調べることができ、お勧めする一冊です。

290-Kono (S.I.)